三十年の歴史をしのぶ

『三池の主婦の手記』

盛大に出版記念集会開く

三池主婦会の結成三十年の取り組みの一つとして、このほど『三池の主婦会の手記』が出版されましたが、五月二十七日午前十一時から労働金庫大牟田支店二階ホールで、およそ百人が参加して出版記念集会が開かれました。

集会は、藤田事務局長の司会ではじめられ、『炭婦協のうた』の全員合唱のあと、開会のことばが述べられました。

三池主婦会を代表して平川会長が、来賓のみなさんに謝意を表し、「きびしい情勢の中で諸先輩のあとを受けついで頑張っています。会員も三百数十人となって、いっそう困難さが増すと思いますが、"主婦の手記"は三池の歴史が示されており、この教訓に学んで前進します」とあいさつ、こんごの支援を訴えました。

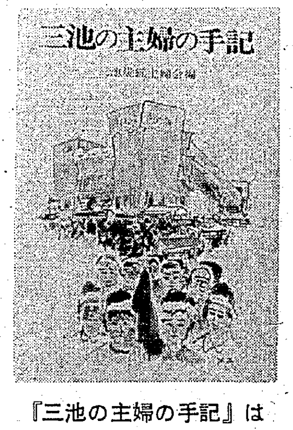
つづいて来賓の紹介とあいさつを受けましたが、まず三池労組を代表して中原書記長があいさつ。福岡県評主婦の会の善院喜久子さん、熊本県評主婦の会の吉村カオルさんが紹介され、歴代の主婦会役員として五島頼子さん、吉田アツさん、福川文枝さんらが紹介され、代表して五島さんが、「記録を残すことの意味は重要です。その努力に感謝します。三池主婦会のたたかいをしのぶには、これ一冊あればよくわかります」とお祝いのあいさつを述べられました。

さらに組合OB役員として、古賀元組合長、浦川元副組合長、塚元元書記長、さらに酒井熊本県議、島大牟田市議、百田荒尾市議が紹介され、古賀元組合長が代表してあいさつ、また解説を書かれた九州大学の小島教授、出版を引き受けられた労働大学の佐藤礼次さんからお祝いのあいさつを受けました。

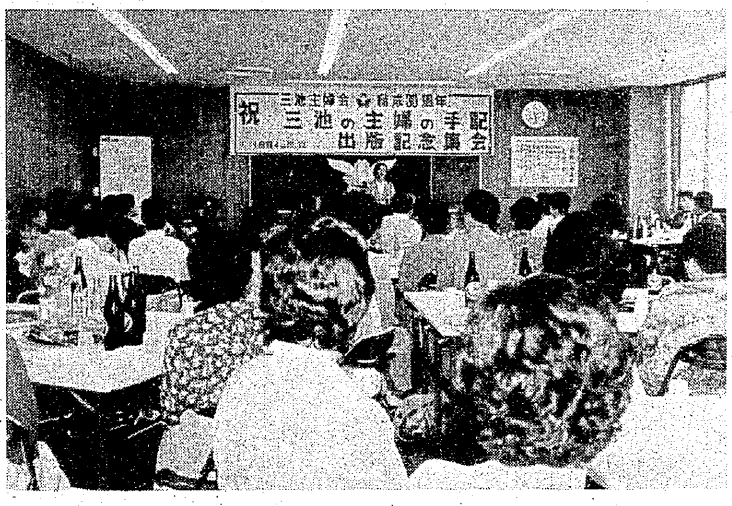
このあと島前会長が、"姿見"の由来と、出版までの経過、原稿の選択、年代のバランス、本の量の限界などについて報告、執筆者への"手記"の贈呈に移り、代表して永野タマエさんが受贈されました。

第一部のフィナーレをかざったのは、原守男さん指揮による"づわの花合唱団"のコーラス。そして吉田アツさんの音頭で乾杯、第二部の懇親会に移りました。

懇親会では、現役をまじえてほとんどの来賓の方がたが発言されましたが、「事実の重み」「子や孫に伝えたい」「涙が出て」と、こもごもに感激を語られました。本当に有意義な記念集会でした。



『三池の主婦の手記』は370ページ。機関紙『みいけ』に書き綴った手記の中から85篇を収録、出版は労働大学。
定価1,500円。多くの購読をと呼びかけています。



主婦会結成30周年を記念した『三池の主婦の手記』の出版を祝って開かれた出版記念集会。あいさつする平川三池主婦会会長。

第12回　三池にまなぶ婦人集会

日程　六月九日　開会集会
主婦会員との交流・民泊　組合員との交流・民泊
六月十日　全体集会　六月十一日　総括集会
受け入れと交流をよろしく。

娘の入学

三川ブロック　江上光子

思えば、早いもので、私が三池主婦会の一員となってから八年の歳月が流れました。

私は、結婚前からある病院に勤めており、今年で約二十年になります。この間、娘の子二人に恵まれましたが、長女を生後四十三日目から大牟田市内の保育園に預けて勤めに出たのが、昨日のことのように思い出されます。

その娘も、この四月、小学一年生になりました。入学祝いのランドセルは、実家の母が買ってやると言っていたのに病に倒れ、二年九カ月の闘病生活のあと、私たち姉妹の看護の甲斐もなく昨年八月に他界し、娘との約束が果たせず母も残念だったでしょう。

その娘が、入学前に淋しそうに、「お母さん、仕事をやめて！」と言うのです。理由を聞くと、「学校から帰って一人で留守番するのはいや」とのこと。私もいつも考えていたことで、勤めを辞めれば一番いいのですが、主人の職種（内特）ではそれもかないません。その夜は娘に、仕事をやめられないことをわかりやすく話してやりました。

その時は、しぶしぶ納得した娘でしたが、一年生になった今では、学校から帰るが早いか、近所の友達と遊んだり、宿題をしに行ったり、家によんだりして結構やっています。

元気に明るく育つ娘の姿を見るにつけ、『案ずるより産むが易し』とは、昔の人はよく言ったものだと、安心して勤めに出ている今日この頃です。

これから先、娘たちが一人前になるまでにはいろいろなことに出会うでしょうが、家族みんなで頑張っていきたいと思います。

くらしの歳時記　梅雨に耐えるために

神山恵三

鉄のさびの発生状態の年間の変化を調べるために、試験片を大気中にさらしておき、毎月のさびの量を測定した。日本海側では、積雪の多い月にもさびが多く見られたが、太平洋側の各地では、だいたい、梅雨の季節がいちばん、さびの量が多かった。

これは、いかに雨が金属を腐食させる大きな因子になっているかということを示しているといえよう。金属製品は、それ故梅雨期をいかに乗り切るかで、その製品の耐候力を決まってしまう。このことはひとり、金属製品だけのことではなく、他の製品もそうであり、人間の"耐候力"も、梅雨期を無事に過ごせるか否かで決められてしまうといってもよい。とはいえ、人間は、他の物体とは違う。梅雨の特徴をつかんで、しかるべき対応をすれば、それなりの効果のあることは当然である。

梅雨といっても、一様に雨が降っているわけではない。六月上旬から降り出してくる雨は、肌寒さを覚えさせる細雨である。季節としては、夏に入っているのに、むしろ、気温が低目であるということを知って湿気寒さにやられないような対応を取ることが、梅雨対策の第一歩である。

月末から七月初めにかけては、本格的な雨となり、雨量が多い。衣服の濡れ、靴のむれ、カビの発生は気温が上がってくるのと相まってさかんになる。清潔第一という対応こそ必要となる。部屋の内の異臭の発生も気が付くようになり、脱臭対策も大切である。つゆの中休みのような、ちょっとした晴れ間は、積極的に利用していこう。

（かみやま・けいぞう＝生気象学者）〔連合〕

6月の暮らし

○…みなづき。六月は国際演劇月、「演劇は世界を結ぶ」のスローガンで日本の作品が海外に紹介されます。4～10日は歯の衛生週間です。18日の日曜日は父の日。アメリカの婦人が男女同権の立場から"母の日"に対し父に感謝する行事を行なった（一九一〇年）のが始まり。23日はオリンピックデー。そして一九六〇年に新日米安保条約が発効した日です。安保を根拠に、トマホークが配備されようとしています。反対を。

○…梅雨入りは全国各地とも平年並みですが、前半は晴れる日が多いものの、後半は肌寒い日が多く、大雨の恐れがあります。とくに関東以北では低温の恐れもあります。梅雨明けが平年より遅くなり、七月に入って肌寒い日が続きそうです。

○…梅雨はカビの季節でもあります。乾いたぞうきんで家具などのからぶきをこまめにし、晴れ間には洋服を陰干しし、押し入れに風を入れて下さい。日照不足は草木の栄養にも影響します。バラや芝生に栄養剤をかけてあげましょう。

くらしの知恵

▼カビの防ぎ方　カビの繁殖の三要素は温度、湿度、栄養素です。食料品につくカビは、熱をくわえたり、冷蔵庫に入れたり、砂糖、塩、酢などで防止しますが、カビはバクテリアに比べて酸に対して強く、濃厚な液汁の中でも成育します。意外にも日光で殺されるカビはあまりなく、むしろ紫外線の方が殺す働きがあります。

▼ジュータンの掃除　ジュータンについた髪の毛は、かめの子タワシなどで、ジュータンを掃くようにして軽くこすると簡単にとれます。

六月の園芸

十四分会　田上勇

松の芽摘み（短葉法）

松の芽摘みの適期（中旬～七月中旬頃）になりました。

芽摘みは、①木の伸びを防ぐ、②枝を多く出させる、③葉を短くする、の三つが大きな要素です。

植物、とくに松は放っておくと大きな枝や幹に養分が集中して伸び過ぎ、植物の生理現象として下枝や小枝が枯れて樹形がくずれ、格好が悪くなります。そこで適当な時期に芽摘みして伸びを防ぎ、小枝を出させ、同時に時期が遅れて芽が出るので、葉が短くできるわけです。

まず枝が六枝以上ですと全体を三等分し、それ以内ですと半分に分け、下の部分の三分の一または二分の一を、新芽の短いものを元から切り、長い新芽を残します。約一週間後に中の部分を同様に芽摘みをします。その時、前回残した下の部分の長い芽を摘みます。半分にした樹は十日位あとに同じ方法で摘みます。残る上部も同じく芽摘みをします。最後に上部の長い芽を摘むことになります。真っ直ぐに立ち上がったら立ち枝や、下の方から出る芽は全部摘み取ります。なお弱った木はやらないようにし、若木（未完成樹）は伸長させるためや、樹形作りのためにやりません。

サツキの植え替え

鉢から抜き取り、細根で堅くなったものを竹箸でかき取るようにほぐし、根張りの間を水がよく通るようにします。下方の細い根も三分の一ぐらいを切り、根の底は植えた時くぼみができないように平にします。

植え付けは根の回りに用土が十分に入るように竹箸でつついたり、手で鉢をたたくなどしてよく落ちつかせ、水をたっぷり与えしばらく日陰で育てます。

挿し木床は早目に準備

挿し木の適期です。床は早目に準備しておき、挿し木をいつ、だれから相談しても間に合うようにしておきましょう。サツキ、ツツジ類、サワラ、ジンチョウゲ、アオキ、モクセイ、モミジ、カエデ、ニレケヤキ、ベニシタン、ピラカンサなどができます。試して下さい。

灌水について

梅雨に入ります。雨水は割合水もたれの害がありませんが、灌水による多湿には十分気をつけ、根ぐされを防ぎましょう。なお米のとぎ汁は肥料ではなく、あくまでも灌水代わりと考えて下さい。逆に鉢物では、目詰りの原因や地表面のカビ発生となります。

花ショーブの植え替え

花後に掘り取り、株分けして植え替えますと三、四年はそのまま咲きます。鉢植えの場合は毎年植え替え、田の土など重い粘土質の土で育てます。

庭木の手入れ

アオキ、ナンテン、ヒイラギナンテン、ヤツデなど伸び過ぎて見苦しくなったものは中途から切って芽を出させます。常緑広葉樹類の間引き、剪定などで樹形を整えましょう。生垣なども刈り込み、すっきりさせましょう。全般に消毒も忘れてならない園芸の一つです。病害、虫害よく見きわめて、薬液を選定の上実施して下さい。